

2021年12月10日
(改定日：2021年12月16日)

お客様各位

株式会社セゾン情報システムズ
HULFT テクニカルサポート

HULFT8 for Windows における後続ジョブの起動に失敗する件について

HULFT8 for Windows において、HULFT のジョブ起動に失敗しているにも関わらず正常終了する場合があります。障害を確認いたしましたので、以下の通りご報告いたします。HULFT8 for Windows をご利用のお客様は以下内容をご確認ください。

－ 記 －

1. 対象製品およびバージョン

HULFT8 for Windows Ver.8.4.0～Ver.8.5.1

2. 影響範囲

HULFT の集信後ジョブ、リモートジョブ実行機能を利用し大量に同時実行していると影響を受ける可能性があります。

3. 発生事象

集信後正常時ジョブ、集信後異常時ジョブ、リモートジョブ実行時に、ジョブ実行のためのデスクトップヒープ領域が不足していた場合、ジョブ実行に失敗しているにもかかわらず、履歴上正常終了してしまいます。

このため、ジョブ実行の失敗を履歴から確認する事が出来なくなります。

デスクトップヒープ領域が不足する条件としては、同時に大量(数百件単位)のジョブや集信処理、リモートジョブが動作した場合となります。

具体的な件数についてはご利用の環境、OS などにより増減いたしますので、ご回答いたしかねますことをあらかじめご了承ください。

また、集信後ジョブの場合、集信管理情報の「集信完了通知」を「正常時ジョブ完了」にしても、配信側に対し、ジョブ実行が失敗した結果を返すことが出来ず、配信側も正常終了してしまいます。

4. 発生条件

以下の条件をすべて満たすと発生します。

- ・集信管理情報に以下のいずれかを設定していた場合

- 正常時ジョブ ID

- 異常時ジョブ ID

もしくは、リモートホストからリモートジョブ実行要求を受け付けた場合

- ・ジョブ実行時にデスクトップヒープ領域の枯渇が発生し、ジョブ実行に失敗した場合

※配信前、配信後の正常時、異常時ジョブは今回の障害に該当しません。

5. 回避策

WindowsOS のレジストリ設定において「ノンインタラクティブデスクトップヒープ」サイズの上限を拡張してください。

本障害の発生頻度を低下させることが可能です。

レジストリの設定詳細については、OS のサポートベンダー様までご確認をお願いいたします。

6. 対応

2022年1月6日に本障害の修正を実施した製品をリリースします。

修正後はジョブ実行履歴に「9999」が記録され、ジョブの実行に失敗した結果が履歴から確認できるようになります。

7. 当ご案内に関するお問い合わせ先について

技術サポートサービス契約先にお問い合わせください。

以上

【改訂履歴】

2021年12月10日	初版作成
2021年12月16日	発生事象に追記